

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームあすなろ 3	評価実施年月日	平成20年10月
評価実施構成員氏名	代表取締役 金子 敏幸 ・ 管理者 佐藤 恒子 ・ 介護支援専門員 西村 秀司 ・ 3階フロアスタッフ		
記録者氏名	佐藤 恒子	記録年月日	平成20年10月

北海道

☐は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員によって作り上げている。		理念を基本として支援して行く。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員が考えた理念であり、フロアー内にも掲載し日々実践に取り組んでいるが、新任スタッフには浸透されていないようにも思われる。	○	朝のミーティングの時などに理念を読み合わせしたり、実践に取り組むように指導して行きたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	掲示板やパンフレット、地域や家族への定期便り(あすなる便り)他に明示している		地域の方に理解して頂ける様に積極的に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	気軽に挨拶したり、ホーム内の動物(犬・ニワトリなど)を見学されている。		もっと積極的に付き合いをして行きたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の行事などに利用者と一緒に参加するようにして、交流を図っている。		町内行事への参加や、当ホーム主催行事への参加者を増やして行きたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会の行事に参加して「介護保険相談会」を設け取り組んでいる。		地域からのニーズを察知し、貢献して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で評価検討を行い、問題点に対しては話し合いを行っている。		話し合い改善に努めている。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度会合の場を持ち、サービス向上に活かしている。		今後ともサービス向上に努めたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活支援課との意見・情報交換を行なっているが、それ以外はあまり交流がない。		今後とも関わりを増やして行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	機会があれば、研修他に参加するようになっている。		必要に応じて対応して行く。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を設置し、防止への知識向上への働き掛けやチェックを行っている。		お互いに注意・観察に努めたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	本人や家族と何回か話を行い理解され納得して頂けるよう説明を行ない契約している。解約時には必要に応じ主治医の意見も参考として話し合いを行っている。		ご家族が納得出来るよう十分な説明に努めたい。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・相談の窓口を設けている。日頃の会話などで聞き入れ対応している。		上手に言葉で表現が出来ない利用者の場合は、表情・行動から察知し解決する様にしている。気軽に意見等を言える環境づくりに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>何か変わりがあれば電話等で報告し、ご家族が来訪された時には日頃の生活の様子をお話している。職員の異動は毎月の「あすなる便り」に掲載し、預り金の出納帳の写しも同送している。</p>		<p>今後とも継続して行く。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来訪の際、ご家族ともかかわりを持ち話し合いなどが必要であれば連絡し、その場を設けている。運営推進会議の場でご家族の代表の方に意見を頂いている。</p>		<p>苦情等には直ぐに対応するよう努めている。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングや親睦会を行い意見や提案を聞いて反映している。</p>		<p>意見・要望を検討し、入居者の住みやすい状態を考えている。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>どんな状況にも対応できるように人員の配置をしている。看護師も勤務している。</p>		<p>今後とも必要に応じて対応して行きたい。</p>
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職や異動も時々あり、フロアーの意見も聞き入れ、利用者への配慮は多少されている。</p>		<p>新人職員が入った場合、以前からいる職員がカバーし早く馴れるよう配慮し、利用者へのダメージを軽減出来るよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	2ヶ月に一度、研修会を開いたり、他の施設での研修会への出席を促している。		研修への参加者が少ない為、積極的に参加するよう心掛ける。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会等の参加による交流は行っている。		もっと情報・意見交換の場する機会を設けて行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会を行ったり、相談・アドバイスをしているが充分ではない。	○	職員と話をする場を少しでも多く持ち、軽減する様に取組んで行きたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個々の努力や実績を考慮し、向上心を持って働けるように努めている。		出来るだけ個々の話に傾聴し向上心を持って働けるよう心掛けたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	何回か話し合いを行ない受け止めるよう努力している。		ご本人と何回か話し合いを行ない、納得して頂けるよう努めたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の要望等を聴いて話し合い重ね受け止める努力をしている。		今後とも話を聴く機会を持ち受け止めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の意志を尊重し、ご家族の意見を聴きケアプランを見極めサービスの向上に努めている。		必要としている支援をより良く見極め対応に努める。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まずホームや他入居者様に馴れて頂くために職員全員で楽しい雰囲気づくりを行っている。ご本人やご家族と相談し、宿泊の体験もして頂いている。		ご本人の好きな事を考慮し、話し合いを行ないながら工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の出来る事などを中心に関わりの中でお互いの信頼を得るように努力している。		一人ひとりの個性を尊重し共に支え合う関係を築いて行けるように努めたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時、時には電話、文章にて状況を説明し一緒に本人を支えて頂いている。		今後とも報告を密に行ない一緒に支えて行きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご家族の要望も理解し、更に良い関係が築けるよう支援を行っている。		今後とも支援して行く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の方が再来しやすい様な環境を提供している。入居以前に通っていた病院なども継続して利用している。		関係が途切れないように支援して行く。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ティータイムでは職員中心に関わりを持ち、入居者同士のコミュニケーションも出来るようにしている。		レクリエーションを多く取り入れる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	やむを得ず退去した後も、転居先に面会に行ったりしている。		ご家族より相談があれば対応して行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の意志を尊重、意向がない方は今までの生活を維持出来るように検討している。		自由に時間を使って生活をされています。今後も個々の思いを把握し支援して行く。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様との会話やご家族の話を参考にし把握するように努めている。		今後も把握に努めたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録に特変など詳しく書き、職員同士での送りを徹底しています。		表情などを毎日観察し、特変に応じた対応を行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	モニタリングを密に行ない、職員・ケアマネ・管理者と話し合いを行なっている。ご家族が来訪された時、意向を聴いている。		フロア会議を行い全員での意見交換をしている。ご本人・ご家族や場合によっては主治医等の意見・アイデアを反映している。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行なっているが、入院などにより日常生活に変化が有った場合の対応が遅れる場合がある。	○	現状に即して早めに対応、見直しを行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に一日を通しての生活が記録され特変事項は詳しく記録されている。		職員全員が目を通すようにし、情報の共有と統一されたケアを行うようにしている。時間が記入されているので把握しやすい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族と外出されたり、その時々々の状況に合わせて支援している。別棟のグループホームや小規模多機能との交流も行っている。		もっと、事業所の機能性を活かし合同での行事や交流を深めて行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	歌のボランティアや交通課主催の交通安全教室・消防署を呼んでの避難訓練を行っている。		学生ボランティアの受け入れや町内行事への参加を増やして行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の事業所との関わりが少ないように思われるが、新しく入居される方の利用されていた事業所及びケアマネから情報を頂いたり、入居後の状況報告は行なっている。		今後、状況に応じて支援して行きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に地域包括支援センターと接し協力した取り組みは行っていないように思われる。	○	今後、連絡等に努め協働して行きたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	以前より通院されている病院に継続して受診されている方、ホームで提携されている病院にかかる方がいます。病院が代わる場合は、ご本人・ご家族に納得して頂いている。		受診困難な方は往診をして頂いたり、適切な医療を受けられるように支援している。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知の進みなど日常生活で変化が出て来たり、支障がある場合は専門医に相談している。専門医にかかっていない場合には、主治医に紹介状を頂き受診し治療を受けている。		今後とも医師とのより良い関係を築き支援して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師が居り相談している。		今後も協働して行く。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院している病院へ行き、主治医や看護師と話しを行っている。		今後も努めて行きたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族へ状態を密に報告し、かかりつけ医に相談や意見を頂きご家族も含めて方針を決めている。		早い段階で話し合い方針を定めて行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医に相談を行ないながら支援している。医療処置が必要な場合は往診・入院等も検討している。	○	支援に備えて知識向上の為に勉強を行い、医療との連携を密にして行く。
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居前にご家族等より情報を頂き、少しでも不安なく生活できるように努めている。		少しでも多くの情報収集を行ない細やかな事にも配慮し、ダメージを軽減するように努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	各利用者様の性格や行動を把握し、状況に合わせた声掛けや対応を行なっている。		今後とも配慮し徹底して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者様ひとり一人のわかる力に合わせて説明を行ない決定して頂いている。		ご本人が、認知によりなかなか理解・納得出来ない事もあるが、少しでも理解頂けるよう努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ひとり一人のペースを大切に希望にそって支援しているが、職員側の都合などを優先する事もある。	○	ご本人のペース・希望にそった暮らしが出来るように支援して行く。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎月1回ホームへ理容師が来ているが、希望があればご本人の望む店へ連れて行っています。自分で着る物を選んでもらうが、おかしな時(重ね着、季節に合わない等)は助言する。		今後も支援して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付けを各々の能力に合わせて手伝って頂いている。		ひとり一人の力に合わせて支援して行きたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は多種用意し選んで頂いている。おやつも意見を取り入れ用意している。タバコは決まった場所にて喫煙して頂いている。		今後とも自由に楽しめるよう支援して行きたい。タバコはご本人の体調も考慮し支援して行きたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の困難な方はチェック表を作成しパターンを把握し失禁を減らす様努めている。出来るだけトイレでの排泄をしてもらい、オムツの使用は極力避けている。		個々の排泄パターンを把握し気持ち良い排泄が出来るよう支援して行く。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日・時間は決まっているが本人の希望も取り入れゆっくりと入浴出来るよう支援している。	○	いつでも好きな時に入浴出来るようにして行きたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない時は原因を把握し解消するようサポートする。場合によっては医師に相談している。様子を見て休息の声掛けや眠れない時は話を聴いたり・お茶を飲んだりし気持ちよく眠れるよう努めている。		ご本人の生活習慣も尊重し支援して行く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	トラブルにならない様に個々で役割分担されています。気分転換にドライブや買い物等に外出している。		拒否される方が居り全員での外出が困難で有る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居時、家族と相談し管理可能な方は本人管理にし、外出時や買い物に行き支払をされている。		ご本人の管理能力を見極めながら、ご家族とも話し合い支援していく。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご家族の支援も頂きながら支援している。車での外出希望の頻度が多い方にはその都度の対応は困難である。	○	少しでも多く外出の機会を設けたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	他の入居者様と一緒に外出するようにしているが、ご本人の希望通りにはなかなか行かないことがある。	○	他のフロアやご家族の協力を頂きもっと支援して行きたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話や手紙のやり取り出来るように支援しています。		電話は時間を考慮し、ご家族に確認のうえ支援して行く。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつも気軽に訪問出来るよう心掛けている。時間の制限もなく、居室にてゆっくりと過ごして頂いたり希望があれば宿泊も可能である。		訪問しやすい雰囲気づくりに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し各フロアへ委員を置き、職員全員が知識を得られるように努力・管理している。		動きのある入居者様を制止するのではなく、別に気を引くなどの拘束をしないケアに努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵はつけておらず、掛けることはないが、夜間帯は勤務者が少ない為フロアーの扉に鍵を掛けている。		夜間帯も施錠しないようにする。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りを行なっている。居室に居ることが多い入居者様は随時様子を把握するようにしている。夜間も巡回し、安全確認を行なっている。		今後とも安全に配慮して行きたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	シャンプー・カミソリ・ライターなど職員が管理している。		希望者は管理能力に応じてご本人で管理されている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の身体状況に把握し、歩行・食事の見守りを行なっている。薬は職員が管理し、服用前に声だし確認をしている。喫煙は決められた場所にて行なっています。		飲み込みが悪くムセる方は必ず見守りしています。誤薬がないように管理・見守りを徹底していく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的には行なわれていないが、ホームの研修会で救命指導を受けたり、フロアーにマニュアルを置き緊急時に対応できるようにしている。		職員が迅速に対応できるよう研修を行ったり、更に詳しいマニュアルを設置する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的にホームにて火災訓練や消防本部主催の自衛消防訓練に参加している。運営推進会議を通し、町内会への協力をお願いしている。	○	実際に全員避難をさせる訓練を実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族が来訪した際、リスク等を伝え理解して頂き対応している。		変化や問題がおきた都度、話し合い対応して行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックや水分量・排便・食事量のチェックを行ない、細かい事でも異変が有った場合は主治医に連絡・相談し早期対応している。		体調変化の早期発見と情報の共有に努めたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の体調変化による薬の変更・服薬量の変更は職員やケアマネ間で処方箋や申し送りにて情報交換を行なっている。		薬についての理解を深めていけるよう勉強する機会を増やしていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便状況をチェック表を活用して把握し、主治医に相談し薬の調整を行ったり、運動(歩行)の促進、食物繊維や牛乳・水分を摂取するよう工夫している。		便通が良くなるような食事を提供していく。下痢をしている時は水分補給に気を配っていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けをし毎食後洗浄して頂いている。状態に応じて介助している。最低週に1回はポリドント洗浄を行なっている。		理解できない方や拒否される方も行なって頂けるよう努める。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェックを行ない、食事量も個々に合わせた量を調整している。場合によってはご本人にも適量か尋ねている。		その人の身体状況に合わせた食事の提供・水分摂取に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者様も職員もインフルエンザのワクチン注射を行なっている。手洗い・うがい・消毒を徹底している。文章の張り出し等注意を促している。		入居者は忘れる事が多い為声掛けにて行なって頂いてる。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	定期的に(週1回)冷蔵庫内の食材管理や清掃し、賞味期限等に留意している。台所、調理用具等の消毒を毎食後行なっている。良く加熱するなどの調理方法を工夫するように努めている。		今後も徹底した衛生・食材管理を行なっていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花や畑、犬他の動物を飼い、親しみやすく日中も施錠されていない為、町内の子供達も気軽に遊びに来ている。段差も少なく車椅子用のスロープも設置している。		親しみやすい環境づくりを工夫して行く。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カレンダーや季節ごとの飾りや植木を置き、生活感・季節感を取り入れている。食事中は音楽を流している。		今後も創意工夫し居心地の良い空間づくりを行なっていく。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングとは別に椅子を置き、少人数で話をされたり、気の合った入居者様同士で自分の居室で話をされている。		ひとり一人の過ごし方を大事にし対応して行きたい。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の家具や仏壇・植木等を自由に持ち込んで頂いている。		ご本人が居心地が良く過ごせるようにご家族と相談しながら工夫して行く。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は窓を開け空気を入れ換えをしている。湿・温度計を設置しその都度調整を行なっている。トイレには消臭剤やポプリを利用し、匂いが気にならないようにしている。汚物もフタ付バケツを使用する。		今後も配慮して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア内に手摺りを設置しバリアフリーにしている。身体機能に合ったトイレの使用などを声掛け誘導している。	○	通路などの安全確保はされているが、浴槽に適した手摺りがないのが不便である。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居様様の分かりやすい表示をフロアや居室・トイレに示し、不安の訴えが有る場合はその都度説明し理解して頂いている。		ご本人の意志・意欲も受容し、少しでも自立して暮らせるように工夫して行きたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	フロアの窓際に自由に花をおいている。外には花鉢、畑、動物がおり、世話や手入れをしたり遊んだりされ心地よい環境づくりをしている。		植木の手入れや野菜の収穫、東屋にての休息他を楽しまれている。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

残存機能を活用し、少しでも出来ることは行って頂く。体調の変化を敏感に察知し医療との連携を深めその方に今 必要な支援を行なっていく。いつも家族のように心を開いて会話し、笑いのあるフロアーを目指しています。